市制100周年のいま、市役所の原点を考える

2024（令和6）年7月1日に川崎市は市制100周年を迎えます。人口5万人弱からスタートした市が100年後に154万人を超えるとは、当時の方々には想像すらつかなかったに違いありません。100年前の1924（大正13）年は、皇居周辺にオフィス街が誕生し、ラジオ放送が本格的に開始した年とされていますが、100年前の話を私たちが実感を伴ってイメージすることはなかなか難しい、というのが正直なところだと思います。同時に、市役所が果たしてきた役割や、市民が市役所に対して抱く期待はどうでしょうか。100年前と今とで変化していること、していないことの両者がある中で、何が変わり、何が変わっていないのかについて言葉で表現し、考える機会はそう多くないのではないかと考えます。

このような認識から、今回の「政策情報かわさき」の特集テーマは「市制100周年のいま、川崎市役所の存在価値を考える」と題し、川崎市の原点を振り返るとともに、市役所の役割、さらにはこれから訪れる未来を考えながら、劇的に変化し続ける世の中において川崎市役所が存在している価値を改めて考え、次の100年に向けた一歩を力強く踏み出すためのヒントを得られるような内容といたしました。

これまでの市の発展の歴史や蓄積、さらには時代のマクロな変化を知ると同時に、市民、企業、職員の言葉から、これからの川崎市役所、川崎市職員に期待されることや「川崎らしさ」についても考えていただければ幸いです。

これからも「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち　かわさき」を実現していけるよう、市民の皆さまとともに歩んでいきたいと思います。

川崎市長　福田　紀彦